



謹んで新年のご挨拶を申し上げます

私が「正義」に憧れを抱いたのは、幼稚園のころが最初だったと思う。その頃の「正義」は、変身ベルトを身につけて、どんな怪人でもやっつける正義のヒーローだった。小学2～3年生の頃、湾岸戦争が起こった。テレビには映画のような煌々とした光が映し出されていた。多国籍軍がイラクを攻撃していると教えられた。現実世界で、今現在も戦争が起きていることにショックを受けた記憶がある。それでも、当時は、戦争は「正義」が「悪」を倒すための戦いだと信じていた。しかし、そのうちに「どちらが正義でどちらが悪」と簡単には区別できないことや、「正義」と「正義」が衝突せざるを得ない場面があることを知った。「何が正義か」についていろいろな考え方があり、それぞれに「正義」がある、とい

う場合もあったのだ。

結果的に何が「正義」だったのかは後世の人が判断するしかないのだろう。大事なことは、今を生きている私達が、今直面している問題について、自分なりの「正義」にかなった選択をすることである。そのために、何を基準に「正義」を判断するかというものさしを手にしておく必要がある。何をものさしにして正義をはかるか、これは難しい問題かもしれない。だが、地域住民を犠牲にして原発を作ることや、震災からの復興に名を借りた増税に「正義」などあるはずがない。何かおかしいと心が感じたら、本当に正しいことなのかと自分に問いかけ、自分の頭で考えていく必要があるだろう。最初から万能なものさしなどないから、自分で考えながら、ものさしを作って

いくしかない。誰かの持っているものさしが常に「正義」とはかぎらないから。

今年、私たちは、原発問題・消費税等の増税問題・TPPへの参加の可否（どのような内容で参加するかも含む）などの問題に対し、選択を迫られる年になるかもしれない。選択の迫られ方は様々で、選挙で民意を問うという形もあれば、原発問題に対する裁判に参加するかという形もありうる。

どう考えるか、これまでの考え方が揺らぐこともあるかもしれない。それでも、絶対に譲れない、変わっていけない点はある。（一部の）国民を犠牲の上に成り立つような政策に「正義」はない。

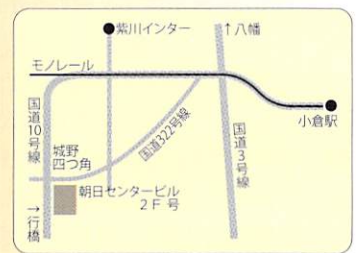
表紙の写真のタツノオトシゴのように、周りに流されず自分の「正義」を貫いて、正しい選択をしたと思える年にしていこう。

■ みなさんと一緒に環境や社会の問題を考え、紙面を作っています。

東風

No.24

- 発行日 2012年1月1日
- 発行所 小倉東総合法律事務所
- 編集者 荒牧啓一
- 連絡先 〒802-0062 北九州市小倉北区片野新町2丁目12番21号
朝日センタービル2階
TEL093(932)5575
FAX093(932)5600
e-mail:ponpoko@lime.ocn.ne.jp



新春対談

原発ゼロに向けて

縄田浩孝 × 田村貴昭

(小倉東総合法律事務所 弁護士)

(日本共産党九州沖縄ブロック事務所 所長)



▶福岡の地から さよなら原発の声高く

田村：11月13日のさよなら原発！福岡1万人集会、感動的でしたね。15000人の人波、しかも若い世代が大勢！♪原発いらない 電気は足りてる 守ろういのち 世界をかえよう♪ サウンドデモでは、「おじさんテンポずれてるよ～」なんていわれながら、実に楽しかった。まさに思想・信条・政党を超えて、いまや世論調査で示された7割の国民の脱原発の意思を、ゆるぎない、継続的なものとして、今後の取り組みの力となる画期的集会でした。



「11・13さよなら原発！福岡1万人集会」
集会後のデモ行進(田村さんブログより)

縄田：マスコミも大きく取り上げざるをえませんでしたね。しかし脱原発が国民的なコンセンサスとなろうとしているときに、九州では、玄海原発はさらっと再稼動、野田総理は新たに原発を10数基増やし輸出を世界に公言する…。電力不足とあおり、足りなければ経済が疲弊すると脅しをかける。反省がないどころか、とにかく原発ありきで、情報は隠蔽・操作し、札東で頬をひっぱたいて推進していく。ここまで来ても、原子力産業の行き詰まりを認めようとしない。

田村：そうですね。しかし、政府が来年度までに決めるエネルギー基本政策は、「ゼロからの視点」で始めています。だからこそ「原発に頼るな」と、国民が声を

上げ続けることが本当に重要なのです。

縄田：放射能の怖さは、まさに「みえない」ということです。「ただちに影響はない」なんて当然の前提で、ただちになくとも、遺伝子への影響、将来、未来、孫子、千年単位での影響がまったく予測できないところに、その怖さがあるのです。空・海・土まさに根こそぎ汚染して、いまだ、これから先、コントロールできる方法を人類は持っていない。



田村：アカデミー賞短編ドキュメンタリー賞を受賞した「チェルノブイリハート」を観ました。事故から16年後ベラルーシ共和国、まさにひとごとでない恐怖と悲しみに襲われます。「チェルノブイリハート」とは、被爆地で生まれているたくさんの心臓に穴の開いた子供たちのことで、ゴメリ州では甲状腺がんの発生率は事故後1万倍に増加したといわれます。他にも奇形児、障害児の急増の現実があります。「放射能との因果関係は明らかではない」との理由から、治療も補償も十分に行われていません。



縄田：玄海原発なんて日本一のポンコツ原発でしょう。

田村：そもそも狭いところに4基もあって、1号機は36年が経っていて爆発してもおかしくないという学者もいる。3号機はプルサーマル発電、4号機は10月に人為トラブルで自然停止した原子炉です。玄海でひと

たび苛酷事故があれば、被害は福島の比ではありません。

縄田：しかし、補助金漬けの地元は原発なしには財政的に苦しい。駐留米軍の基地問題も同じだと思うんですが、こうした負のスパイラルにはまっている自治体はどうしたらよいのでしょうか。

田村：原発は国策です。だから国が施策を変えれば原発はなくなる。その後の自治体運営をどうするかは、その地域の住民が選ぶ取る「自治」の問題でもあるのです。自然エネルギーへの転換や新たな産業の掘起しは、原発との訣別を決めたときに初めて、動き始めるものです。その中に取り込まれている間には進みません。福島県は県内のすべての原子炉を廃炉にする方向です。カネよりのち、いのちのための知恵が大事なのです。

▶九州を原発ゼロ！ 自然エネルギー発電への転換一番乗りに！

縄田：では具体的に自然エネルギーは、どんな可能性があるのでしょうか。

田村：高知と愛媛の間にある梶原という4000人くらいの小さな町が今、自然エネルギーで全国から注目されています。私も視察してきましたので、詳しくはブログ(2011.10)をご覧ください。その可能性にわくわくしますよ。九州は自然エネルギーの宝庫です。風力地熱、太陽光、潮流、バイオマス…九州でもたくさんの研究者・技術者がす

太陽光、中小水力、地熱、風力…

自然エネルギーの可能性は

20億kW以上(環境省発表)

=電力供給能力の**約100倍**

=原発54基の発電能力の**40倍**



風レンズ風車

ばらしい成果を既に上げています。九州大学で開発された、弱い風でも高出力が見込める風力発電システム「風レンズ風車」は、実証実験が博多湾で始まっています。原子力は経済的でないことが明らかになる中で、原発を作っている企業も一方で自然エネルギー産業に力を入れ始めています。企業は必ず儲かる方向にシフトしていきますから。

縄田：原発の問題はまさに人の生存の根源にかかわる問題です。その意味で「原発なくそう!九州玄海訴訟」には事務所として取り組んでいかなければならないと思います。

田村：私も市民原告の一員になりました。様々なアクションを通じて、原発ゼロ社会を一日も早くつくりたいですね。

たむら たがあき

田村貴昭さんのプロフィール

1961年生まれ。北九州市議会議員を2期8年。九州沖縄比例ブロックから国会を目指して活動中(次が3回目)。2011年春、福岡県知事選挙に出馬し健闘。焼酎アドバイザー、温泉入浴指導員の肩書きも持つ。細マッチョめざして筋トレ中。小倉北区霧ヶ丘在住 【ブログ】 <http://tamura.air-nifty.com/1961/> (田村貴昭で検索)

●●メッセージ●●

「政権交代から2年以上がたちました。「生活者が主役」といいながら、民主党政権で暮らしがよくなったとの実感があるでしょうか。相変わらず聞こえてくるのは、消費税増税と社会保障のいっそうの後退です。普天間基地の問題も自公政権の時となら変わらず、今度はTPPで国民の食料も医療も雇用もみんなアメリカの利益のために差し出してしまおうというのです。とんでもありません。閉そく感ただよう政治社会、将来への不安…2大政党制の行き詰まりを打開する上で決定的なのは、財界主権から国民主権に切り替えることです。

平和で命が大切にされる世の中はみんな願い——ならば、日本国憲法の実践です。2011年、国民の変革への願いを背負って、ひき続き九州沖縄からがんばります。